日本一夕日がきれいな小学校を酒蔵に

尾畑酒造株式会社　学校蔵

新潟県佐渡市　旧西三川（にしみかわ）小学校

佐渡島の南西部、真野湾に注ぐ西三川流域は、一帯に金銀鉱床が展開しており、古くから砂金の採掘が行われてきたことで知られる。この西三川地域に立つ旧西三川小学校は1873年に開校し、多いときには200人以上の児童が通ったとされるが、少子化により、2010年に閉校となった。閉校後の児童の受け入れ校となる学校のPTA会長を務めていた尾畑酒造株式会社代表取締役社長の平島健さんは、学校統合に向けた集まりで小学校を訪れているうちに校舎再生への思いが募り、閉校後の校舎を借り受け、日本酒造りを学ぶ場として再生する案を佐渡市や近隣住民に提案。地元の応援を受け、尾畑酒造で断熱や水回りの工事などを行い、2014年に「学校蔵」として再生した。

長期滞在や企業研修も可能に

「学校蔵」は、1892年創業の尾畑酒造の二つ目となる酒蔵で、夏場に酒造りを行い、「酒造り」「共生」「交流」「学び」の4つの柱で運営が行われている。生物多様性を保全する原材料と太陽光パネルによる再生可能エネルギーを使った酒造りを行い、副産物の酒粕や麹は、学校蔵カフェで地元生産者の食材とともに発酵メニューとして提供。さらに、学校蔵では、仕込み期間に長期滞在しながら酒造りと地域を学ぶ「一週間の酒造り体験プログラム」を実施しており、タンク1本につき若干名、仕込み体験者の生徒を受け入れている。学校蔵カフェは職員室を、宿泊施設はランチルームだった部屋をリノベーションしたもので、企業研修や長期滞在ができる場所としても整備され始めている。

また、毎年夏休みに佐渡島で２～３週間にわたり木材を使った伝統的な建築や工法を学ぶゼミ合宿「佐渡木匠（もくしょう）塾」を実施している芝浦工業大学建築学部建築学科の蟹澤研究室と協働し、学生たちの作品が蔵内に設置されているのも特徴だ。

毎年6月には「学校蔵の特別授業」という一日限りのワークショップが開催されており、島内外からさまざまな人が集まり「佐渡から考える島国ニッポンの未来」をテーマに議論する場が設けられている。

（文・構成／（株）ジェイクリエイト）

1 2022年に元職員室を改装してオープンした学校蔵カフェ。イベント時には地元の人との交流の場になる
2 小高い丘に立つ旧西三川小学校
3 木造の学校蔵外観
4 理科室を酒造場としてリノベーション
5 小学校から見える美しい夕日
6 佐渡から日本の未来を考える「学校蔵の特別授業」
7 旧校舎で仕込んだ銘酒「学校蔵」。今年からは「かなでる」という銘柄名にリニューアルされる

位置図

写真提供：尾畑酒造株式会社